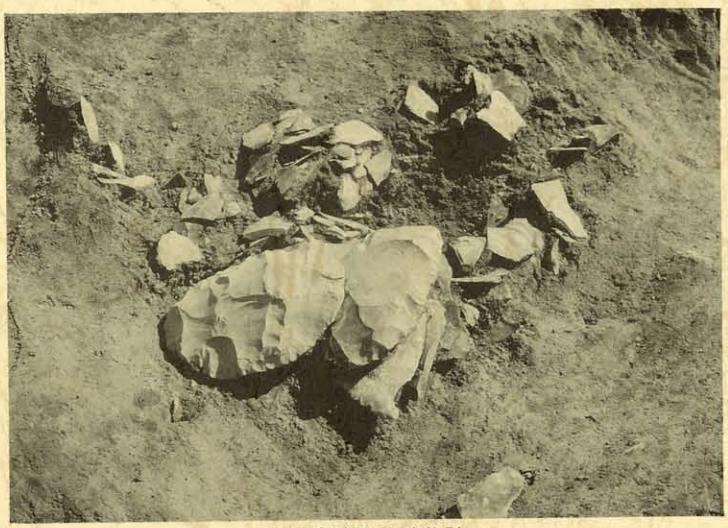
仙台市文化財調査報告書第167集

年　報　13

平　成　3　年　度



野川遺跡石器貯蔵跡

平　成　4　年　3　月

仙　台　市　教　育　委　員　会

仙台市文化財調査報告書第167集

年　報　13

平　成　3　年　度

野川遺跡石器貯蔵跡

平　成　4　年　3　月

仙　台　市　教　育　委　員　会

序　　文

文化財は現代のまちづくりの新しい要素として脚光を浴びつつあります。当教育委員会は文化財の保護・活用とそのための調査にさまざまな事業を展開しておりますが、本年度は「原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定し、遺跡を「まちづくり」の中に生かす具体的な姿を提示致しました。

普及啓発活動の中では従来から市民の要望の強かった仙台の主要な遺跡の概要を『仙台の遺跡』として小冊子にまとめました。

一般文化財では三沢初子所用の帯が重要文化財に指定されたのをはじめ、「福岡の鹿踊・剣舞」及び「滝原の顕拝」が県指定無形民俗文化財に、「榊流青麻神楽」及び「生出森八幡神楽」が市指定無形民俗文化財に指定されたのが特筆されます。

開発行為等に関わる埋蔵文化財の発掘調査は、国庫補助事業を含めて31件実施致しました。これらのなかには約１万年前の宮城県最古の石器貯蔵跡が発見された野川遺跡や、古代の行政施設かと考えられる神柵遺跡など貴重な成果を得た調査も数多く含まれております。

今後とも文化財保護行政に対して市民の皆様のご支援とご助言をお願い申し上げ、刊行のご挨拶と致します。

平成３年３月

仙台市教育委員会

教育長　東海林　恒　英

目　　次

序　言
目　次
例　言
1．管理係関係事業報告…… 1
2．調査係関係事業報告…… 5
3．普及活動関係事業報告……17
4．新規登録の遺跡……19
職 員 録
平成3年度仙台市文化財調査報告書刊行目録

例　　言

1．本書は仙台市教育委員会社会教育部文化財課が，平成3年度に実施した保護管理、調査、普及啓発の各事業に関する年度報告書である。
2．本書の地形図は、建設省国土地理院発行五万分の一「仙台」を使用した。
3．執筆は、各担当が行い、編集は全員の協力のもとに田中則和が行った。

1．管理係関係事業報告

(1) 一般文化財

① 文化財保護委員会の開催・文化財の指定

定例会（隔月偶数月）6回を開催し、平成3年10月1日付けで次の2件を無形民俗文化財に指定した。

名　　称	保　持　団　体
榊流青麻神楽	榊流青麻神楽保存会
生出森八幡神楽	生出森八幡神楽保存会

榊流青麻神楽

生出森八幡神楽

また、平成3年6月21日付けで市指定有形文化財であった帯（三沢初子所用）十二条、附として総鹿子裂二枚と入日記（正徳二年四月）一通が重要文化財に指定された。同じく平成3年8月30日付けで市指定無形民俗文化財であった「福岡の鹿踊・剣舞」及び「滝原の顕拝」が県指定無形民俗文化財に指定された。以上により、仙台市内に所在する指定文化財は149件（うち仙台市指定文化財は77件）となった。

② 文化財パンフレット等の作成

- 第26集　氷河時代を生きた人々　5,000部
- 第27集　第16回文化財展　－発掘この一年－　1,500部
- 第28集　仙台の遺跡　2,000部

主な配布先は市内の小・中学校、各区役所、図書館、市政情報センター、各市民センターの他、県内の各市町村教育委員会、博物館、資料館等の研究機関、及び近県の教育委員会、関係機関等である。

③　説明板、標柱の設置

市民の文化財に対する理解と認識を深め、あわせて文化財愛護思想の高揚を図るため、下記の文化財説明板の新設、再建、補修を行った。

	名　　称	種別	設置場所
説明板	上前十三塚（３基）	新設	太白区坪沼字上前
	三神峯遺跡	再建	太白区三神峯
	東昌寺のマルミガヤ（２基）	再建	青葉区青葉町
	霊屋下セコイヤ類化石林	再建	青葉町米ケ袋
	伝　支倉常長の墓	再建	青葉区青葉町
	保春院の墓	再建	青葉区北山
	境野館跡	新設	太白区秋保町境野
	上館跡	新設	太白区秋保町馬場
	小屋館跡	新設	太白区秋保町湯元
	姉滝	補修	太白区秋保町馬場
	旧熊谷家住宅	新設	泉区福岡字岳山

④　辻標の設置

市政八十八周年を記念して昭和52年度から「由緒ある町名・通名辻標設置事業」を行なっている。

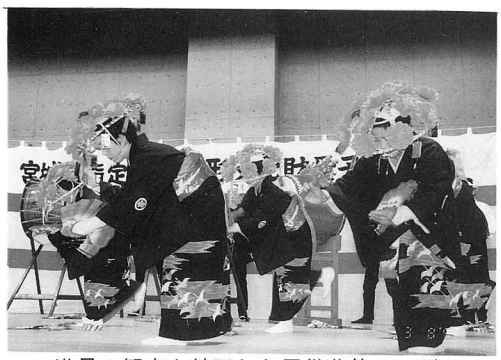
今年度は、下記の５基を設置し、あわせて79基となった。

設置町名・通名	設　　置　　場　　所
桜小路／七軒丁	青葉区片平２－１　東北大学構内
牛越橋／川内三十人町	青葉区川内三十人町54地先
川内中ノ瀬橋／川内大工町	青葉区川内大工町８地先
一本杉／保春院前丁	若林区保春院丁３　若林区役所敷地内
長町／笹谷街道	太白区長町４－６　長町小学校敷地内

⑤　文化財めぐり・文化財講座・民俗芸能のつどいの開催

市民の文化財に対する理解と認識を深め、あわせて文化財愛護思想の高揚を図るため、下記の行事を開催した。

行事名／実施月日	会場等	講　　師	参加者	内　　容
親子文化財めぐり 「社寺建築の魅力を探る」 8月19日(月)	市内	佐藤巧氏 (東北工業大学教授)	親子21組 (50名)	大崎八幡神社、臨済院弁財天堂、賀茂神社、諏訪神社、宇那禰神社
文化財講演会 「甦る遺産仙台城」 11月16日(土)	仙台市博物館ホール	佐藤巧氏 (東北工業大学教授)	120名	古図やスライド、写真をふんだんに用いて建築史上から見た仙台城の概要と価値について解説
民俗芸能のつどい 3月8日(日)	仙台市博物館ホール	千葉雄市氏 (宮城県文化財保護審議会委員)	220名	榊流青麻神楽、生出森八幡神楽、滝原の頭拝、愛子の田植踊の各保存会


満員の観衆を魅了した民俗芸能のつどい

好天に恵まれた親子文化財めぐり

⑥　文化財分布調査

・泉地区遺跡詳細調査を実施

・東北大学文学部教授有賀祥隆氏に依頼し、指定候補物件である大絵馬の調査（大崎八幡神社、落合観音堂、愛宕神社）を実施した。

⑦　無形民俗文化財記録保存

市内に伝承されている民俗芸能等についての記録作成及び伝承者・団体の意識高揚に資するため、民俗芸能のつどいのビデオ撮影を実施した。

⑧　指定文化財の維持管理

陸奥国分寺跡、陸奥国分尼寺跡、山田上ノ台遺跡、三沢初子の墓、遠見塚古墳、松森焔硝蔵跡などの除草、清掃を実施した。

⑨　文化財の防災点検

第38回文化財防火デーに当たり、仙台市消防署の協力のもとに１月26日を中心に防災訓練（12ケ所）、特別査察（20ケ所）、広報活動（文書送付等）を実施した。

⑩　その他

・東北大学理学部教授大橋広好氏を代表とする調査団に業務委託し、仙台市指定天然記念物「泉ヶ岳のミズバショウ」の自然環境調査を実施した。

・市指定有形文化財「大年寺惣門」の控え柱１本について防蟻・防腐処理を行った。

(2)　補助事業

①　陸奥国分寺跡土地買上事業

陸奥国分寺跡の保護活用を図るため、史跡内の土地706.79㎡（４件）を買収した。これにより史跡地内における買上げ実績は指定面積の29.15％となった。

②　有形文化財建造物補助事業

下記の事業に対して補助を行った。

・大崎八幡神社防災施設整備事業（３年計画の初年度）

・落合観音堂屋根葺替修理事業（部分葺替を実施）

・賀茂神社社殿塗装修理事業（上賀茂社殿についてベンガラ塗りを中心に実施）

・諏訪神社防災施設改修事業（火災報知設備の交換等）

・大崎八幡神社防災施設保守点検、社殿漆塗補修（管理費）

・東照宮防災施設保守点検、社殿漆塗補修（管理費）

・陸奥国分寺薬師堂防災施設保守点検（管理費）

また、仙台市博物館所蔵の慶長遣欧使節関係資料修理事業が補助事業として実施された。

③　無形文化財技術保持補助事業

・精好仙台平の技術保持者甲田綏郎氏に対して補助を行った。（原材料購入費）

④　無形民俗文化財補助事業

以下の16の民俗芸能の保存会に対して補助を行った。

・大崎八幡神社能神楽　・愛子の田植踊　・新川の田植踊　・芋沢の田植踊
・下倉の田植踊　・湯元の田植踊　・長袋の田植踊　・馬場の田植踊
・大倉の田植踊　・大沢の田植踊　・川前の鹿踊・剣舞　・福岡の鹿踊・剣舞
・上谷刈の鹿踊・剣舞　・野口の鹿踊　・滝原の顕拝　・馬場愛宕神社神楽

2．調査係関係事業報告

国庫補助事業として郡山遺跡、山田条里遺構・富沢遺跡（仙台平野の遺跡群）の範囲確認調査を実施した。

受託事業としては富沢遺跡９件、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、南小泉遺跡、神柵遺跡、山田条里遺構、下飯田遺跡、高田遺跡、杉土手、北前遺跡、郡山遺跡、大蓮寺窯跡の19件を調査した。

自主事業（仙台市を原因者とするもの）では王ノ壇遺跡、養種園遺跡、大貝中遺跡、上ノ原山遺跡、大原新田・大貫遺跡の５件を調査した。この他緊急に調査したものに昭和北遺跡、愛宕山横穴墓群、野川遺跡、山ノ寺洞雲寺跡がある。また、試掘調査も今市遺跡などで29件実施した。整理･報告書作成は土手内窯跡、沼遺跡、町田遺跡（以上受託事業）、郡山遺跡（65次）、富沢遺跡（30次）、高柳遺跡、伊古田遺跡、中在家南遺跡（以上自主事業）の８件である。

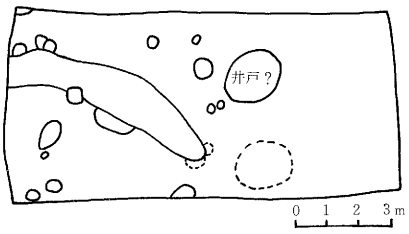
この他、山田上ノ台遺跡と富沢遺跡（30次調査地点）の整備については「（仮称）原始古代村･旧石器の森整備基本計画」を策定した。

（註）　なお、下ノ内遺跡については発掘調査の結果、大部分が撹乱である事が判明したため、特に項を設けていない。

(1)　今市遺跡（試掘調査）

１．調 査 地　仙台市宮城野区岩切字三所北87－１
２．調査期間　平成４年３月26・27・31日
３．調査面積　72㎡
４．調査原因　倉庫増築
５．調 査 員　熊谷幹男

七北川流域の自然堤防上に立地する。調査の結果、溝１条、井戸跡１基、土坑数基、焼土遺構２基の外、ピット等が検出された。出土遺物には、古代の瓦、土師器、須恵器、中世陶器、中国産の青磁等があるが、遺構は中世に属するものと判断される。付近には中世留守氏の居城である岩切城があり、市場の存在が知られていることから、中世の集落跡の一部と思われる。（調査後設計変更）



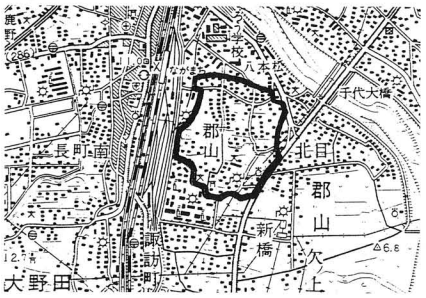
確認遺構平面図

(2)　郡山遺跡（90～92次調査）

（国庫補助事業他）

1．調 査 地　仙台市太白区郡山二～五丁目
2．調査期間　平成３年４月11日～11月29日
3．調査面積　1,233㎡
4．調査原因　範囲確認調査
5．調 査 員　木村浩二、長島栄一

第３次５ケ年計画の２年次にあたり、II期官衙の南西部分の遺構確認を目的として調査を計画した。また、住宅建築等に伴う発掘届の提出に伴い小規模な事前調査を２件実施した。調査の結果、遺跡北側では官衙相当期の竪穴住居跡を４軒検出した。また、官衙南西地区ではＩ期官衙の建物跡・木材塀跡を検出し、Ｉ期官衙内部の状況や広がりが次第に判明しつつある。

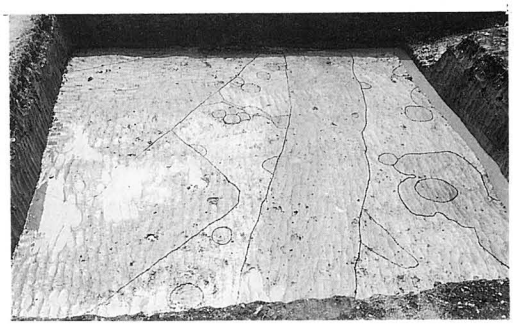


91次調査区
SB1300全景
（南より）

(3)　長町貨物ヤード跡地（郡山遺跡隣接地　国庫補助事業）

1．調 査 地　仙台市太白区長町六丁目地内
2．調査期間　平成３年７月24日～10月16日
3．調査面積　約700㎡
4．調査原因　範囲確認調査
5．調 査 員　長島栄一・稲葉俊一

調査地は、長町貨物ヤード跡地内で、今回の調査は、範囲確認のための試掘調査である。調査の結果、竪穴住居６軒、溝跡、小溝状遺構などを検出した。遺構検出面やヤード造成土中からは、須恵器片、主にロクロを使用していない土師器片、弥生土器片などが出土している。今回発見された遺構、遺物のあり方は、郡山遺跡とほぼ同じ状況を示している。

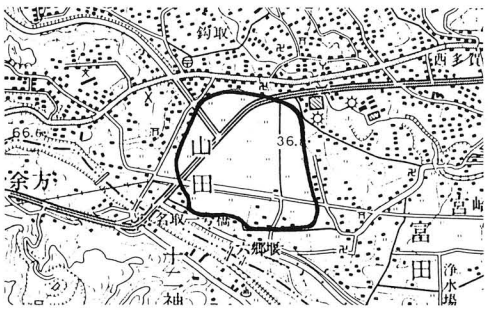


遺構確認状況

(4) 山田条里遺構

1．調 査 地　仙台市太白区山田字大石・御殿他
2．調査期間　平成３年９月13日～12月17日
3．調査面積　約1,100㎡
4．調査原因　農村基盤総合整備事業
5．調 査 員　渡部弘美、川名秀一
6．備　　考　３ケ年計画の最終調査

名取側北岸の河岸段丘上に立地する。一辺約110ｍを計る整然と区画された土地割がみられ、条里制に起因するものと考えられてきた。検出遺構には近世及び平安時代の水田跡４面、土坑５基、溝跡１条等があり、遺物は陶器・磁器・土師器・須恵器等が少量出土した。当遺跡の主体となるのは平安時代の水田跡である。なお、条里制の問題は本格的整理に待ちたい。



20トレンチ　3b層水田跡（平安時代）

(5) 富沢遺跡

富沢遺跡は仙台市の南東部地下鉄長町南駅付近の面積約90ヘクタールにも及ぶ遺跡である。遺跡の大部分は、名取川と広瀬川に挟まれた後背湿地にある。昭和57年より調査が継続して行われ今年で10年目にあたる。今回は、10ケ所で調査が行われた。このうち、第76次調査は国庫補助事業として行われ、また第78次調査は次年度も調査が継続して行われる。

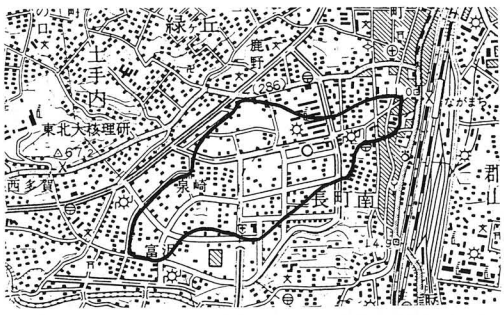
今回の調査では、昨年同様弥生時代から近世にかけての水田跡あるいは水田土壌の可能性のある層が検出されている。水田跡が検出されたのは第70次・第73次・第74次・第75次・第77次・第79次調査である。検出された水田面で水田区画がわかるものは少ない。第72次調査では、縄文時代の河川跡が検出されている。第77次調査では、中世の居住域が検出され、掘立柱建物跡や、「倉」の性格が考えられる土坑からは、木簡、烏帽子と思われる漆製品、炭化米、栽培種の種子等が発見されている。この地点の周囲では過去の調査において同時期の居住域（第15次調査）と水田域（第35次調査）が検出されており、富沢遺跡東側の微高地部分での土地利用のされ方を考える上で貴重な資料となった。

その他の遺物として、弥生時代の木製農具、石包丁、土師器、須恵器、陶器、磁器等が発見されている。

富沢遺跡調査要項

調査次数	所在地	調査期間	調査面積	立地	協力者	担当調査員
富沢第70次	長町南四丁目12	平成3年4月15日～5月28日	約70㎡	微高地縁辺	㈱日栄産業	五十嵐康祥
富沢第71次	長町南三丁目14	平成3年4月15日～4月24日	約15㎡	後背湿地	㈱東北積和不動産	渡辺弘美
富沢第72次	長町南四丁目21	平成3年5月8日～6月19日	約100㎡	後背湿地	㈱仙台土地開発	渡辺弘美
富沢第73次	長町七丁目11	平成3年6月10日～6月27日	約33㎡	後背湿地	佐藤良輔	五十嵐康祥
富沢第74次	長町南三丁目1	平成3年7月4日～9月12日	約284㎡	後背湿地	㈱宮城野土地	平間亮輔
富沢第75次	富沢二丁目5	平成3年7月1日～8月22日	約115㎡	後背湿地	社会福祉法人 仙台市社会事業協会	渡辺弘美
富沢第77次	長町一丁目4	平成3年8月22日～ 平成4年1月7日	約310㎡	微高地	㈱仙台土地開発	五十嵐康祥
富沢第79次	鹿野三丁目209	平成3年11月11日～12月5日	約50㎡	後背湿地	㈱東急不動産	太田昭夫

※富沢第76次調査＝「仙台平野の遺跡群」に報文所収
富沢第78次調査＝平成4年度継続調査予定



第74次調査　12層水田跡（弥生時代）

(6)　山ノ寺洞雲寺跡

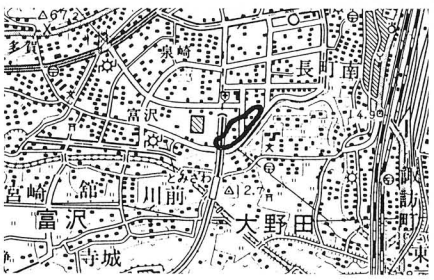
1．調査地　仙台市泉区山の寺二丁目
2．調査期間　平成3年7月1日～12月19日
3．調査面積　約150㎡
4．調査原因　寺院増築
5．調査員　熊谷幹男

礎石立ちの開山堂跡及び焼土遺構・土坑・ピット等が検出された。（来年度に継続）

(7)　下ノ内浦遺跡（５次調査）

１．調 査 地　仙台市太白区長町南四丁目32－１，11
２．調査期間　平成３年９月１日～平成４年３月26日
３．調査面積　308 ㎡
４．調査原因　共同住宅建設
５．調 査 員　佐藤甲二、工藤信一郎
６．備　　考　２カ年計画初年度

下ノ内浦遺跡は、名取川支流、笊川北岸の自然堤防上に立地する。これまでの調査で縄文時代から近世に至る集落跡、墓跡、生産跡（水田跡等）が検出されている。第５次調査区では、地表下約2.8ｍの砂礫層（20層）までの調査を実施し、平安時代の土坑・溝跡（6a層上面）、古墳時代以降の畠跡・溝跡（6a層上面・7a層上面）、弥生時代後期の遺物包含層（８層）等を検出した。



６Ｃ層　畠跡
（南西より）

(8)　南小泉遺跡（21次調査）

１．調 査 地　仙台市若林区遠見塚１丁目46地内
２．調査期間　平成３年５月27日～９月25日
３．調査面積　約1,100 ㎡
４．調査原因　共同住宅建設
５．調 査 員　金森安孝・工藤信一郎
　　稲葉俊一

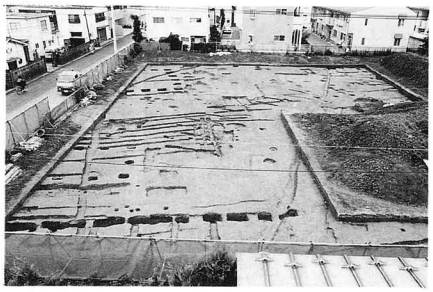
調査地は、南小泉遺跡の中央部、自然堤防上の標高11ｍ前後の畑地である。調査の結果、弥生時代中期の土坑１基、古墳時代中期の竪穴住居跡７軒や土坑、平安時代の溝跡17条や土坑、鎌倉時代の掘立柱建物跡２棟、竪穴遺構２基、溝跡１条などを検出した。出土遺物には、桝形囲式期の弥生土器・石鏃、南小泉式期の土師器・石製模造品、瓦、青磁、中世陶器などがある。

調査区全景
（東より）

(9) 神柵遺跡

1．調 査 地　仙台市若林区沖野二丁目
2．調査期間　平成３年４月16日～８月９日
3．調査面積　857㎡
4．調査原因　共同住宅建設
5．調 査 員　木村浩二、川名秀一

霞ノ目飛行場と広瀬川の間、標高９ｍ程の自然堤防上にあり、東部一帯には奈良時代に施行された条里制の地割がみられた。調査の結果、一般集落にはみられない建物跡・塀跡が整然と並び、須恵器・硯等の格の高い遺物が多く出土した他、「玉」の線刻のある土師器も何点か見られた。奈良時代後半期の郡・郷等の行政機関に関連する施設かと考えられる。

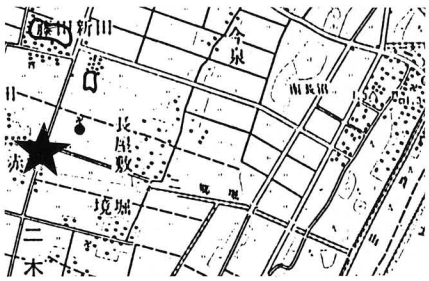


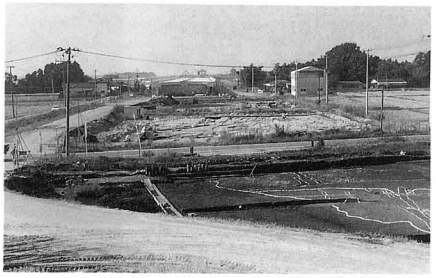
調査区全景
（東より）

(10) 下飯田遺跡

1．調 査 地　仙台市若林区下飯田地内
2．調査期間　平成３年５月15日～12月　日
3．調査面積　約7,000㎡
4．調査原因　道路建設
5．調 査 員　工藤哲司、中富洋

調査地は仙台平野の東端部、海岸まで約３kmの浜堤上に立地している。周囲の標高は１ｍ前後である。今年度の調査では古代の集落跡は16棟以上の竪穴住居跡や溝跡、土坑などで構成され、出土遺物から７世紀末から８世紀初頭に属するものと考えられる。中世遺構は主体部が次年度の調査区に延びており、詳細は不明である。





遺跡近景

(11) 高田遺跡

1．調 査 地　仙台市若林区日辺字千刈田37番地
2．調査期間　平成３年５月15日～平成４年１月20日
　　平成４年３月16日～３月31日
3．調査面積　5,500 ㎡（次年度も継続調査）
4．調査原因　仙台南道路建設
5．調 査 員　金森安孝、佐藤甲二、
　　荒井　格、熊谷裕行
6．備　　考　本調査初年度

名取川北岸の自然堤防上に立地する。検出された遺構は、近世水田跡（３時期）・中世水田跡（？）である。また、弥生時代中期中葉（桝形囲式期）の遺物包含層と旧河道も確認された。近世の水路跡から木製の椀・箸・下駄などが、旧河道堆積土最下層から桝形囲式期の土器・石器・木製品が出土している。弥生時代から近世にかけての土地利用の変遷の解明が期待される。

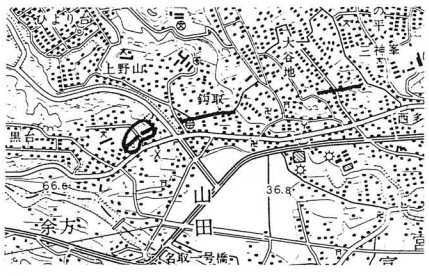
高田遺跡

遺物出土状況（弥生時代桝形囲式期）

(12) 杉土手・北前遺跡（杉土手－２次調査、北前遺跡－４次調査）

1．調 査 地　仙台市太白区山田北前町1045－１
2．調査期間　平成３年７月15日～８月13日
3．調査面積　47.5 ㎡
4．調査原因　宅地造成工事
5．調 査 員　太田昭夫

今回の調査地点は北前遺跡ではやや東寄りに、杉土手では全長の南西端にあたり、段丘上に立地する。杉土手の調査では前回の調査と同様に、企画的な方法により構築されていること、その後に２回の修復が行われていることなどが再確認された。下層の北前遺跡の調査では、１次調査とほぼ同様の基本層が確認され、遺物が少量出土したが、遺構は検出されなかった。

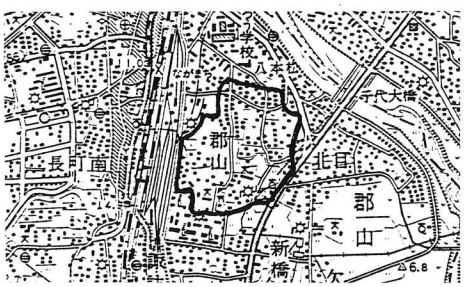


杉土手近景

⑬　郡山遺跡（93次調査）

1．調 査 地　仙台市太白区郡山五丁目47番地
2．調査期間　平成３年10月24日～12月７日
3．調査面積　約600㎡（道路部分）
4．調査原因　宅地造成
5．調 査 員　長島栄一・稲葉俊一

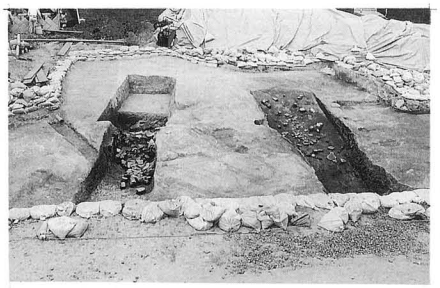
調査地は、II期官衙南方第84次調査区の南隣りである。調査の結果、平安時代の畦畔２、擬似畦畔１、Ⅰ期官衙ないしそれ以前の竪穴住居１軒、Ⅰ期官衙段階の掘立柱建物１棟、遺構等（一部材木列の可能性を示すもの）、II期官衙段階の溝跡１条等を検出した。出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器等がある。なお今回の調査は、原因者の事情により中断している。



⑭　大蓮寺窯跡（３次調査）

1．調 査 地　仙台市宮城野区東仙台６丁目13－26
2．調査期間　平成３年４月22日～５月18日
3．調査面積　130㎡
4．調査原因　大蓮寺本堂改築
5．調 査 員　篠原信彦　佐藤甲二

大蓮寺窯跡は仙台市北部を東走する七北田丘陵東端の舌状に張り出した南側斜面に立地している。今回の調査によって地下式の窖窯２基が検出され、ＳＯ４窯跡、ＳＯ５窯跡として調査を実施した。窯跡より７世紀後半から８世紀初頭頃の時期の単弁蓮華文軒丸瓦・ロクロ挽き重孤文軒平瓦・丸瓦・平瓦、須恵器坏・蓋・すり鉢等が出土した。



調査区全景（ＳＯ４・５窯跡）

⑮　昭和北遺跡

1．調 査 地　仙台市若林区四郎丸字昭和北地内
2．調査期間　平成３年12月10日～12月23日
3．調査面積　約 70 ㎡
4．調査原因　市道拡幅
5．調 査 員　神成浩志、佐藤淳

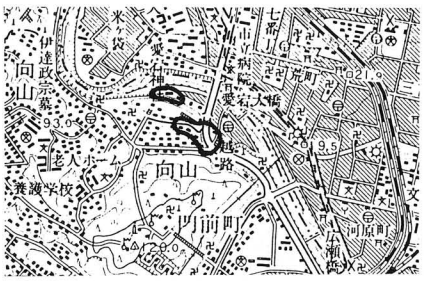
昭和北遺跡は仙台市南東部の名取川によって形成された自然堤防上に立地する。今回の初めての調査によって、竪穴住居跡５軒、溝跡４条、土坑３基、小溝状遺構、ピット多数などが検出された。遺物は、土師器、須恵器、鉄滓などで、特に、調査区西端の竪穴住居跡２軒からは、古墳時代（塩釜～南小泉式期）の土師器がまとまって出土した。

ＳＩ２竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

⑯　愛宕山横穴墓群Ｄ地点

1．調 査 地　仙台市太白区向山四丁目70－７他
2．調査期間　平成３年９月24日～10月18日
3．調査面積　約 720 ㎡
4．調査原因　ビル及び住宅建築
5．調 査 員　主浜光朗、熊谷裕行、篠原信彦

愛宕山の南北斜面に群在する本横穴墓群は、広瀬川に面した北側斜面から南東斜面にかけてＡ～Ｃ地点まで確認されていた。今回さらに南側斜面に横穴が確認されＤ地点とした。17基確認し、15基の調査を実施した。既に大部分が破壊されており、規模や形態等が判明するものは少ない。玄室床面に河原石を敷いたものや棺座をもつものもみられた。鉄製品が数点出土した。



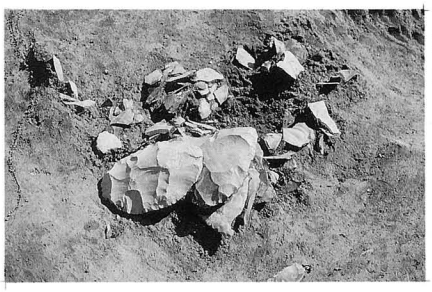
愛宕山横穴墓群Ｄ地点（西側）

⑰　野川遺跡

1．調 査 地　仙台市青葉区熊ケ根字町
2．調査期間　平成３年８月29日～９月27日
3．調査面積　120 ㎡
4．調査原因　市道熊ケ根定義線拡幅工事
5．調 査 員　田中則和、吉岡恭平
　　工藤信一郎

市内北西部、広瀬川上流部の支流青下川西岸の河岸段丘上に位置する。標高は約187ｍで、青下川との比高差は約50ｍである。今回の調査で、縄文時代後期前半の遺物包含層の下層に、縄文時代草創期の「キャシュ（埋蔵物）」または「デポ（一括埋納）」とよばれる、石器の意図的な一括貯蔵の痕跡を示す土坑２基が宮城県内で初めて検出された。

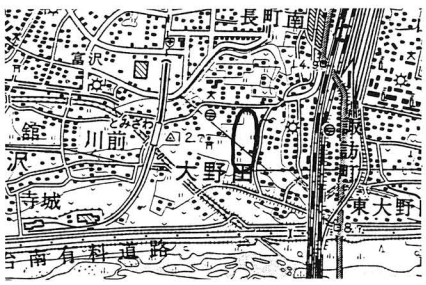
野川遺跡

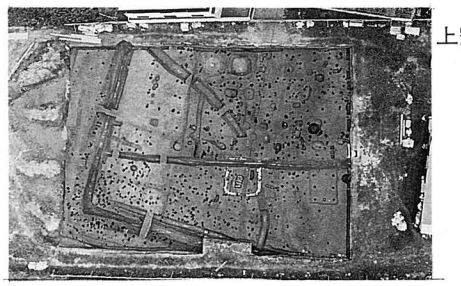

第Ⅰ土坑Ｂ
石器出土状況

⑱　王ノ壇遺跡

1．調 査 地　仙台市太白区大野田字王ノ檀地内
2．調査期間　平成３年４月22日～12月19日
3．調査面積　2720 ㎡
4．調査原因　都市計画道路建設
5．調 査 員　小川淳一　渡部　紀
6．備　　考　来年度以降継続

遺跡は笊川に囲まれた地域の自然堤防上に立地している。中世～縄文時代の遺跡である。今年度調査したⅥ区からは鎌倉時代～南北朝時代の屋敷跡が発見された。深い堀で区画された屋敷地からは、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、井戸、土坑、石積みの墓跡などが発見された。遺物には、中世陶器、青・白磁、かわらけ、温石、雁股鏃、饅頭金具、フイゴの羽口などがある。

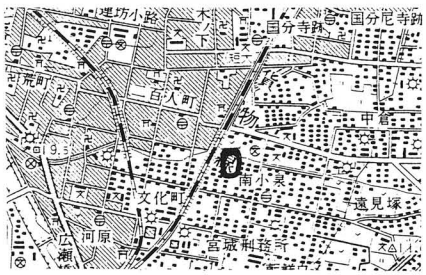


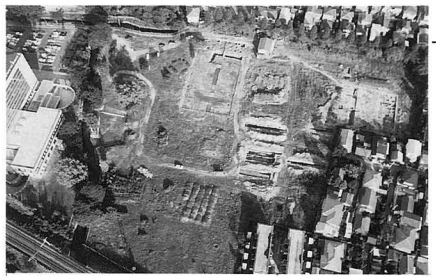

上空より

⑲　養種園遺跡

1．調 査 地　仙台市若林区南小泉一丁目
2．調査期間　平成３年４月22日～12月27日
3．調査面積　約3800㎡
4．調査原因　若林区文化センター・都市計画道路建設
5．調 査 者　佐藤洋・菅原裕樹

若林区文化センター・都市計画道路「南小泉・茂庭線」の建設に伴う事前調査で、若林区役所南側の旧養種園地内に位置する。調査の結果、古墳時代の住居跡５棟・土坑２基、中世の掘立柱建物跡２棟・土坑６基・溝跡７条、江戸時代の掘立柱建物跡13棟・堀跡６条・土坑71基・井戸跡２基・溝跡28条・塀跡１条・性格不明遺構３基・池跡１基・柱穴多数を検出した。中世は２時期、江戸期２～３時期の変遷が考えられる。特に、江戸期の遺構は籾蔵関連遺構・大規模な池跡・屋敷を区画する堀跡などが絵図資料と一致し、伊達家別荘跡と考えられる。

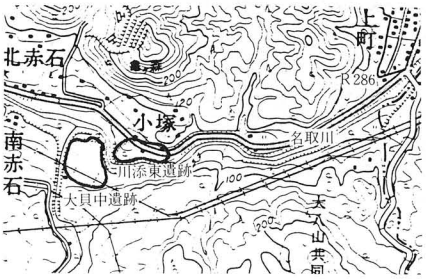


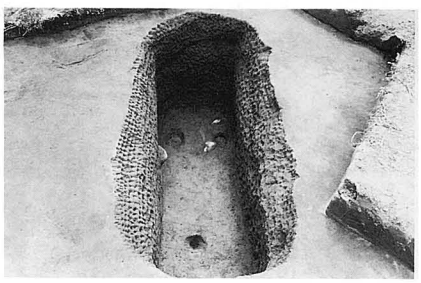

上空より

⑳　大貝中遺跡・川添東遺跡

1．調 査 地　仙台市太白区坪沼字大貝上・中・下地内、仙台市太白区茂庭字川添東地内
2．調査期間　平成３年４月19日～12月３日
3．調査面積　川添東遺跡－4,900㎡
　　大貝中遺跡－3,400㎡
4．調査原因　国道286号線改修工事
5．調 査 員　神成浩志・　佐藤　淳

大貝中遺跡、川添東遺跡は名取川によって形成された河岸段丘の両岸に位置する。大貝中遺跡は縄文時代のおとし穴10基を含む土坑54基、前期初頭を中心とした縄文土器包含層等が確認された。土器や石器の出土量が多いことから付近に居住地域が存在する可能性が大きい。また対岸の川添東遺跡でも土坑７基や河川跡が確認され、前期初頭の縄文土器が出土した。

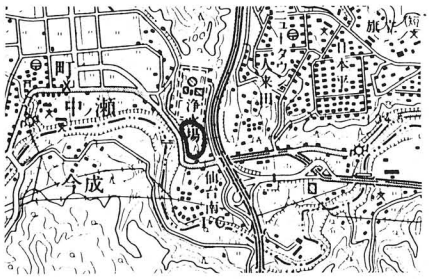



大貝中遺跡
第12土坑

(21) 上ノ原山遺跡

1．調 査 地　仙台市太白区茂庭字上ノ原山地内
2．調 査 期　平成３年４月15日～９月21日
3．調査面積　約2500㎡
4．調査原因　国道286号線改修
5．調 査 員　主浜光朗　熊谷裕行

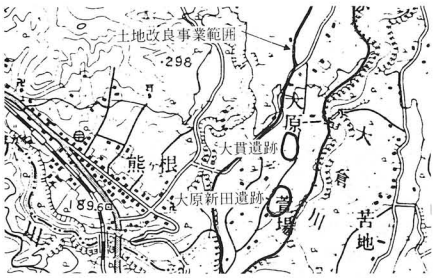
本年度は調査最終年度にあたり、調査区北西部、Ⅲ、Ⅳ区の調査を行った。５層上面で平安時代の竪穴住居跡１軒、縄文時代の土坑30基を検出した。土坑は全て陥し穴と考えられる「T'ピット」である。５層中～７層上面で旧石器時代のものと考えられる石器が出土した。石器はナイフ形石器や石核、剝片等がある。石器周辺の土壌を水洗した結果、チップが検出された。



(22) 大原新田遺跡・大貫遺跡（大倉地区遺跡範囲確認調査）

1．調 査 地　仙台市青葉区大倉字大原
2．調査期間　平成３年４月17日～５月20日
3．調査面積　720㎡
4．調査原因　仙台市大倉地内土地改良事業（平成３年度施行分）
5．調 査 員　工藤信一郎、稲葉俊一

大原地区は市内北西部、広瀬川の支流である大倉川と青下川に挟まれた河岸段丘上にあり、標高は180～200ｍ程である。調査は排水路及び切土施行部分を対象とし、計24ケ所にトレンチを設定して行った。今回の調査で確認された遺構は土坑１基（縄文時代中期前半）のみで、他に縄文時代中期後半の遺物包含層が検出された。



3．普及啓発活動関係

私たちの祖先が残してくれた文化財は、現代に生きる私たちへ、人間としての生き方・未来へのあり方を示し、多くの教訓を語りかけてくれる。これらの文化財に自ら身近に体験してもらおうと、今年度も数々の行事を実施してきた。そのいくつかを紹介していきたい

(1) 遺跡見学会・発掘体験学習

遺跡の発掘調査現場を見学し、また実際に土を掘りそこから出てきた遺構・遺物に触れることによって、郷土（自分たちの住んでいる身近な場所）にも私たちの祖先が残してきた歴史が連綿と続いていることに気づかせ、歴史学習をいっそう身近なものとしてとらえさせることができると思われる。

今年度は遺跡見学会を遠見塚小学校（神柵遺跡・養種園遺跡）、沖野小学校（神柵遺跡）、八木山小学校（下飯田遺跡）で実施、また発掘体験学習を遠見塚小学校（南小泉遺跡）、若林小学校（南小泉遺跡）、大野田小学校（王ノ壇遺跡）等の学校関係の他、六郷市民センター（高田遺跡）、現地説明会に参加した一般市民の方々（南小泉遺跡）を対象に実施した。また事前指導として、仙台市内の遺跡についての学習と発掘・見学会の方法について指導を行い、あわせて見学・発掘体験に対する意識の高揚を図った。

▲遠見塚小学校発掘体験学習（南小泉遺跡）

▲沖野小学校神柵遺跡見学会事前指導

(2) 夏休み親子縄文体験

▲縄文土器づくりに挑戦

▲竪穴住居の中で縄文食体験

縄文土器作り・野焼き・縄文食・竪穴住居復元を柱とする縄文体験を、夏休み期間を利用して市内の小学６年生の親子25組を対象に、富沢遺跡において実施した。実日数は３日間であったが、土器の乾燥も含めると約１カ月の長期にわたる体験となった。参加者は、快適な現代の生活とのギャップに驚く反面、興味深く楽しみながら縄文体験に参加していたようである。

(3)　第15回文化財展（テーマ展）・記念講演会

「氷河時代を生きた人々」をテーマに旧石器時代展を、11月３日～７日までの５日間、東北電力グリーンプラザを会場に実施した。短期間ながら1,800人を超える多くの市民の方々が「氷河時代」へのタイムスリップを楽しんでいた。

また同時に開催された講演会では、東北大学講師　阿子島香氏が「氷河時代を生きた人々」と題して、ＶＴＲ・スライド等の豊富な資料をもとに２時間にわたり講演された。

▲文化財展会場　東北電力

▲記念講演会　講師　阿子島香氏

(4)　第16回文化財展（発掘この１年）

３月９日～18日間、宮城野区役所１階ロビーにおいて、今年度実施した文化財関係の調査及び事業について、写真パネルや遺物をとおしてその成果を市民の方々に紹介した。また今回は特に宮城野区内の遺跡を特集として紹介し、入場者は500名以上を数えた。

(5)　その他

①　発掘調査成果に関わる記者発表・現地説明会を６調査遺跡で実施した。

②　広報機関紙として「広報文化財」を38号～42号を発行し、それぞれ10,000部を印刷し各関係に配布した。

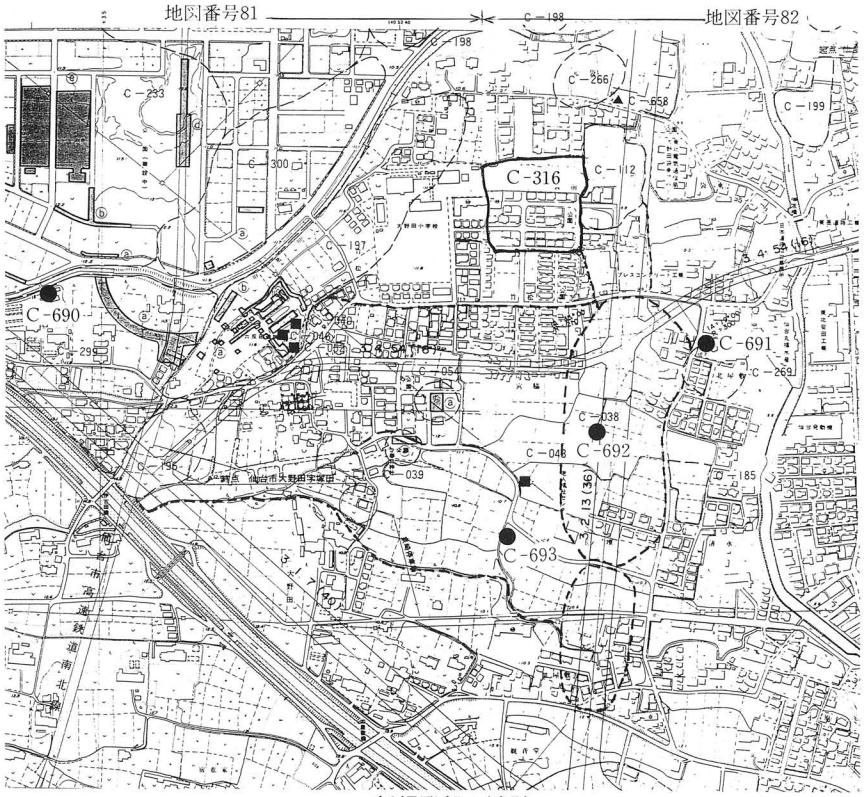
③　仙台市文化財パンフレット第26集「氷河時代を生きた人々」、第27集「発掘この１年」を発行し、それぞれ文化財展で市民に配布した。

4．新規登録の遺跡

今年度は袋前遺跡（C－316)、富沢４丁目古碑群（C－690)、北屋敷古碑群（C－691)、王ノ壇古墳古碑群（C－692)、王ノ壇42古碑群（C－693)、の５件を新規登録した。

また相ノ原遺跡（C－115)、南小泉遺跡（C－102)、については試掘調査・分布調査等に基づき遺跡の範囲を変更（拡大）した。

	名　称	所　在　地	時　代	内　　容	地図番号
1	袋前遺跡	太白区大野田字袋前23他	縄文・奈良・平安	鉄滓・羽口・るつぼ等出土	82
2	富沢４丁目古碑群	〃富沢４丁目５－13	中世	無紀年銘板碑２基	81
3	北屋敷古碑	〃大野田字北屋敷31	中世	無紀年銘板碑１基	82
4	王ノ壇古墳古碑群	〃大野田字王ノ壇７	中世・近世	板碑３基・近世碑３基	82
5	王ノ壇42古碑群	〃大野田字王ノ壇42	中世	無紀年銘板碑２基	82



新規登録の遺跡（スケール１：10,000）

文化財課職員録

課長	早坂春一	主事	佐藤　洋	調査第二係	
		〃	吉岡恭平	係長	田中則和
管理係		〃	主浜光朗	主事	金森安孝
係長	鴇田義幸	〃	長島栄一	〃	佐藤甲二
主事	白幡靖子	〃	佐藤　淳	〃	渡部弘美
〃	佐藤正幸	〃	渡部　紀	〃	工藤哲司
〃	高橋三也	〃	大江美智代	〃	斎野裕彦
〃	庄司　厚	教諭	佐藤好一	〃	工藤信一郎
		〃	小川淳一	〃	荒井　格
調査第一係		〃	神成浩志	〃	中富　洋
係長	加藤正範	〃	高倉裕一	〃	平間亮輔
主任	熊谷幹男	〃	稲葉俊一	教諭	太田昭夫
〃	篠原信彦	〃	菅原裕樹	〃	五十嵐康洋
〃	木村浩二	〃	熊谷裕行	〃	川名秀一

平成３年度文化財調査報告書刊行目録

第156集　郡山遺跡－65次発掘調査報告書

第157集　杉土手・北前遺跡発掘調査報告書

第158集　町田遺跡発掘調査報告書

第159集　神柵遺跡発掘調査報告書

第160集　富沢遺跡30次発掘調査報告書II

第161集　郡山遺跡XII－平成３年度発掘調査概報

第162集　仙台平野の遺跡群XI－平成３年度発掘調査報告書

第163集　富沢遺跡－70次～79次・下ノ内遺跡発掘調査報告書

第164集　南小泉遺跡－21次発掘調査報告書

第165集　土手内遺跡発掘調査報告書

第166集　沼遺跡発掘調査報告書

第167集　年報13

仙台市文化財調査報告書第167集

平成３年度
年　　報　　13

平成４年３月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町３－７－１
仙台市教育委員会社会教育課

印刷　株式会社東北プリント
仙台市青葉区立町24—24　TEL 263-1166